

いいだ未来デザイン2028中期計画 基本目標(案)について

前期計画基本目標	中期計画基本目標関係部局(案)	【補足】中期計画(案)の考え方
◆戦略(考え方)	◆戦略(考え方)	
<p>1 若者が帰ってこられる産業をつくる</p> <p>◆地域産業の持続的発展に資する研究開発力の強化を図るとともに、新産業の創出、地域産業の高付加価値化への挑戦を支援します。 ◆長野県や南信州広域連合などと連携強調し、地域の産業拠点としての「産業振興の知の拠点」整備を推進します。 ◆地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成に取り組めます。</p>	<p>1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる</p> <p>◆すべての地域産業の持続可能な成長を目指し、産業振興と人材育成の拠点(エス・パード)の機能の活用等を含め、産業の高付加価値化や事業転換の支援に取り組み、外貨獲得と地域内経済循環を推進します。 ◆働きやすい環境づくりを推進するとともに、地域産業の将来を支える担い手・起業家の育成に取り組めます。 ◆産業用地等の整備やエス・パードの活用など、地域のリソースを活かした企業誘致活動を推進します。</p>	<p>前期の「若者が帰ってくる」というのは、基本目標1だけではなく、全体に関わること。コロナ禍にあっては地域(足元)に目を向けて基盤をしっかりと作り上げることが必要。国が示す「稼ぐ地域」、「安心して働く」ことができる「魅力ある産業づくり」に特化する考えでテーマを据えた。その上で、「稼ぐ」というキーワードで、エス・パードの機能を活用したすべての産業の高付加価値化、コロナ禍による事業転換支援を目指すこと。「安心して働ける」ための環境づくりと担い手・企業支援。「魅力ある産業づくり」のために地域のリソースを活かした企業誘致の3つを示した。</p>
<p>2 飯田市への人の流れをつくる</p> <p>◆リニア中央新幹線の開業や三遠南信自動車道の全線開通による新しい交通網時代を見据え、世界に誇れる多様なライフスタイルの提案により、移住者の増加を目指す。 ◆この地域を訪れる人を増やすため、国内外から多くの人を惹きつける魅力づくりに取り組めます。 ◆地域の魅力をさらに磨き上げて地域ブランドを構築するとともに、地域の魅力をプロモーションします。 ◆リニア中央新幹線長野県駅を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進します。</p>	<p>①飯田市とのつながりを築き、飯田市への人の流れをつくる ②関係人口を増やし、飯田市への人の流れをつくる</p> <p>◆この地域と関わる人を増やすために、地域の魅力をつくり、さらに磨き上げて地域ブランドを構築するとともに、国内外に地域の魅力をプロモーションします。 ◆中心拠点として、暮らし・交流のステージである中心市街地の魅力磨きを推進し、関係人口の増加を目指します ◆(再掲)産業用地等の整備やエス・パードの活用など、地域のリソースを活かした企業誘致活動を推進します。 ◆人と人をつなぎ、自らの役割や居場所が実感できるライフデザインの提案により、移住者の増加を目指します</p>	<p>「議会の提言にある経済としての観光観光産業としての扱いは上記の産業づくりで示しており、基本目標2では観光の誘客としての交流人口拡大に向けたプロモーション、中心市街地の賑わいをしっかりと作り全地域に波及すること、さらに企業誘致で雇用による人の流れを目指す位置づけとした。</p> <p>人の流れをつくる上では交流人口の拡大→関係人口の拡大→移住・定住の促進いう3段階の取組になる。そのうえで今重点になるのは関係人口の拡大で、飯田の魅力をしっかりと発信し、人を惹きつけ、つながりをつくっていくことに注力したい。◆戦略の考え方については人と人とのつながりづくりが移住には重要ということを強調した。</p>
<p>3 地育力が支える学び合いで、生きる力をもち、心豊かな人材を育む</p> <p>◆地育力(地域の資源と人材)を活用した飯田らしい小中連携・一貫教育と多様な学習交流を推進し、リニア時代を生き抜く力(主体性・柔軟性・協調性・コミュニケーション力・グローバルな発想力とローカルな視点での行動力・倫理観)を培う人材を育みます。</p>	<p>“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む</p> <p>◆子どもたちの学力を保障し向上させるために、お互いを認め合い、安心して学べる学級作りを目指すと共に、小中連携・一貫教育を充実させ学力向上「結い」プランに基づいた授業改善を進めます。また、コロナ禍への対応含め、全ての教育活動を通じてICTの活用を推進します。 ◆日常生活における自他の尊厳を尊重する態度を育成し、互いを認め合える温かな人間関係の集団づくりと個に寄り添った誰ひとり取り残さない教育や支援を推進します。 ◆飯田型コミュニティスクールを活かし、地域・学校・家庭がそれぞれ当事者意識を持って、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めます。 ◆日々の学校給食を活用した食育に取り組めます。 ◆読書を通じて感性や言葉を豊かにし、想像力や読解力、また表現力や情報を活用する力がつけられるよう関係機関が連携して取り組めます。 ◆就労等で放課後保護者等が不在となる家庭の児童の居場所づくりを進めます ◆学校運営協議会との意見交換を踏まえ、少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けての基本的な考え方や方向性に関する指針の策定を進めます。 ◆児童生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、通学路安全対策や環境整備を進めるとともに、気候変動に適応した校外活動に取り組めます。</p>	<p>前期計画の2つの基本目標を中期計画は3つで整理し直した。教育委員会の役割として、まずは豊かな心と生きる力を育む教育であることを示した。</p>
<p>自然と歴史を守りいかに伝え、新たな文化をつくりだす</p> <p>◆「伊那谷の自然と文化」をテーマとした学術研究、教育普及、保存継承、活用創造の取組を、行政・教育機関の連携と、市民研究団体及び地域組織等との協働により、総合力を発揮して推進します。 ◆「地域振興の知の拠点」の形成を目指します。</p>	<p>4 豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む</p> <p>◆住民自らが地域の歴史や営み、価値を共に学び、地域の魅力発信や課題解決を実践できるよう支援します ◆地育力を活用した環境学習、ふるさと学習、体験学習等を幼児期から高校まで体系立て、子どもの主体性、創造性、社会性、協調性などを育み多様な自己実現の可能性を広げます ◆コロナ禍においても子どもから高齢者までライフステージに応じて多様な学習や交流の機会を持てるよう支援します ◆霜月まつり、人形浄瑠璃、獅子舞などの古くから伝わる民俗芸能などの伝統文化や恒川官衙遺跡、飯田古墳群、名勝天龍峡などの地域資産を地域の宝として守り、発信します ◆誰もが安全・快適に利用できる社会教育施設の整備やサービスを向上させます</p>	<p>前期4年間に議会や市民の方達のいろんな意見を聞き、社会教育機関や豊かな資源はあるが、そこで地域の在来の人達による教育に課題があるということで、公民館を中心とした人材育成を柱に据えた。</p>
<p>4 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる</p>	<p>5 文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる</p> <p>◆人形劇フェスタや人形劇の公演・創造活動を楽しみ、その魅力を発信するとともに、「人形劇のまち」を改めて強くアピールし、国内外との交流を進めます。 ◆伊那谷文化芸術祭、オーケストラと友に音楽祭など多様な文化・芸術を鑑賞したり、文化・芸術活動の取組みの充実を進めます。 ◆市民が集い交流する多様な文化活動などが深まり広がるよう支援します。またコロナ禍の中、市民主体の文化・芸術活動をつなぎ、発展させていくための活動を支援します。 ◆飯田市の文化芸術の拠点施設としての新文化会館の建て替えに向けた検討を進めます。 ◆飯田やまびこマーチや風越登山マラソンの開催などを通じ子どもから大人まで日常的な運動習慣の定着させ、健康・体力の向上を図ります ◆トップアスリートの指導やプレーに触れる機会を増加させるなど、競技スポーツ人口を拡大し競技志向を高めます ◆全市型競技別スポーツスクールなど中学生期におけるスポーツの多様な選択肢を整備するとともに、スポーツ指導者の育成に取り組めます ◆公民館事業を基盤とした、幅の広い地域住民が参画できる事業によりスポーツを通じたコミュニティづくりを進めます ◆誰もが安全・快適に利用できるスポーツ施設の整備やサービスを向上させます</p>	<p>未来デザインを見据えて暮らしの豊かさを見据えたときには文化やスポーツによる輝きやうるおいが重要ということを示した。</p>

いいだ未来デザイン2028中期計画 基本目標(案)について

前期計画基本目標		中期計画基本目標関係部局(案)		【補足】中期計画(案)の考え方
◆戦略(考え方)		◆戦略(考え方)		
5	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ◆産み育てたいと思う子どもの数の理想実現に向けた環境づくりを進めるとともに、子育てが孤立しない環境づくりと、地域の応援による子育てや見守りができるまちづくりを進めます。	6	結婚・出産・子育ての希望をかなえる ◆産み育てたいと思う子どもの数の希望の実現に向けた環境づくりを進めます。 ◆地域の見守りの中で「子ども・子育て」が孤立しないまちづくりを進めます。	結婚、出産の晩婚化という時代背景もあり、「若い世代」という言葉を除いてテーマを据えた。◆戦略の考え方は前期の考え方を整理して記載した。
6	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす ◆市民一人ひとりが、心身ともに健やかに暮らすことで、家族や地域がいきいきと輝き続けられます。市民(個人・家族)、地域(団体・機関等)、行政(専門職)等の多様な主体が一緒になって役割を發揮し、健康寿命が延伸されるまちをつくりまします。	7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす ◆市民一人ひとりが、心身ともに健やかに暮らすために、市民(個人・家族)、地域(団体・機関等)、行政(専門職)等の多様な主体が一緒になって役割を發揮し、健康寿命が延伸されるまちをつくりまします。 ◆人生100年時代を見据え、高齢者の多様な社会参加を促し、生きがいのある暮らしを応援します	議会の提言で「健康長寿」はどうかという意見をいただいたが、「健康」という言葉が重なること、「生涯現役」という言葉は人生において現役ということは元気で長生きする「健康長寿」と意味合いは同じと捉えて、前期と同様とした。 ◆戦略の考え方は「市民総健康」と「生涯現役」という2段で整理し直した。
7	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる ◆地域福祉活動の実践者である住民や地域活動組織が、多様な主体との協働で培ってきた活動実績(資産)をベースに、様々な制度や社会福祉事業者、民間事業者などと一緒になって「共助」を実践できるよう支援します。 ◆地域活動組織などの育成にあたっては、「身近な成功事例の積み重ね」が共有できる視点を大切にしていきます。 ◆住み慣れた地域での生活が続けられるよう、地域福祉活動と地域包括ケアシステムとの連携を進めます。	8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる ◆誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域共生社会の実現を目指して、地域住民や多様な主体と協働で地域福祉を進めます。 ◆横断的な課題や、現在の福祉制度の狭間の課題に対して、丁寧な対応ができる包括的な支援体制を構築し、必要とする支援につなげ、課題解決に向けて取り組みます。	◆戦略の考え方を大きな視点でとらえ直した。その上でそれを実現する包括的な支援体制が重要と捉えて示した。
8	新時代に向けたこれからの地域経営の仕組みをつくる ◆少子化、高齢化、人口減少が進む中で、すべての地域住民が主体的に活動し、いつまでも地域のくらしと自治を運営していけるように、「新時代の地域経営」の仕組みを構築します。 ◆地域が内発的に発展することを目的に、地域課題を解決する実行部隊の立ち上げ、運営の支援を行うとともに、多様な主体が連携した仕組みづくりを進めます。	9	20地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体で進める ◆20地区の基本構想・基本計画の実現に向けて、それぞれの地区の個性を生かした魅力づくりの取組を支援します。 ◆地域課題への対応や地域の魅力づくりに取り組む運営組織の立ち上げと運営を支援します。 ◆時代の変化に対応するとともに、コロナ禍を乗り越えていく自治活動組織をはじめとする地域活動の展開を支援します。	前期の「地域経営の仕組みをつくる」では、従来の自治活動組織では解決できない課題を新しく実践的な組織を作り解決するという取組で一定の成果は出せたが、なかなか目的の共有理解がされない課題があった。このため、地域の自治活動組織の役員の方々と目的共有できるよう、各地区の基本構想、基本計画の実現に向けて、地域主体の取組を進めていく視点で示した。
9	個性を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、交流する ◆市民の誰もが主体的に参画できる「多様性をいかした地域づくり」に向けて、人権と個性を尊重しつつ共に生きる人づくり・環境づくりを進めます。	10	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる ◆国籍や性別などお互いの個性や多様性を認め合い、共に支え合うことで、誰一人取り残されない地域社会を目指します。 ◆地域づくりに関する市民活動が広く行われ、誰もがチャレンジができ、活動と交流の中からネットワークが広がっていくことを目指します。	前期目標の「交流する」を「共に生きる」という議会からの提言について議論する中で、戦略的な基本目標としては多くの市民の皆さんの多様な活動をより活発化させていくことが重要と考え、「活動の場を広げる」という表現を選んだ。重点は国籍、性別などの多様性を認め合うこととした。市民活動支援(ムトス事業)を現在の基本目標8に移管することも検討したが、活動の場を広げる戦略として、この基本目標の中で取り組むこととした。
10	豊かな自然と調和し、低炭素なくらしをおくる ◆様々な環境教育や環境学習を展開するとともに、適切な環境情報を提供することで、より高い市民意識を醸成し、環境美化活動、自然環境保全活動、低炭素なくらし、低炭素な企業活動を推進します。 ◆地域環境権を活用した再生可能エネルギーによる持続可能な地域づくりを全市に拡大することで、地域全体として低炭素な社会を構築します。	11	地球環境への配慮が当たり前のまちづくり ◆市民、事業者、地域など、それぞれが気候変動、生物多様性、廃棄物など身近に迫る環境問題を自らの課題と捉え、具体的に行動します。 ◆「もったいない」を常に心がける意識を広め、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の実践を通じて廃棄物の抑制と循環型社会をつくりまします。 ◆二酸化炭素の排出の削減と気候変動に適應した生活、事業活動への転換に、協働して取り組みます。	環境文化宣言の中でも、「環境配慮から環境優先のまちづくり」ということがうたわれており、低炭素なくらしだけでなく、環境を意識した多様な取組を進める必要があると考えている。ただ、「優先」という言葉ではハードルが高い印象を与えてしまうため、「配慮を当たり前とする」と表現した。
11	災害に備え、社会基盤を強化し、防災意識を高める ◆自助、共助を支援する環境の整備に取り組み、安全安心に暮らせるまちを目指し、市民が備える防災力の向上、地域で取り組む防災・減災のまちづくり、情報伝達・収集機能の充実に取り組みます。	12	災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る ◆市民が安全・安心に暮らせるまちを目指し、地域防災力の向上、地域で取り組む防災・減災のまちづくりなど、自助・共助を支援する環境整備に取り組みます。 ◆感染症まん延防止と経済再生の両立に向けた体制の強化を図ります。 ◆暮らしを支える社会基盤の長寿化・安全対策を図り強靱化を推進します。	前期は地震や防災を意識していたが、コロナ禍を踏まえて「社会リスク」という言葉を加え、感染症やそこから発生する弊害に備えるというところを目指す。道路や水道等のハードについては◆戦略の考え方で社会基盤の強靱化として示している。
12	リニア時代を支える都市基盤を整備する ◆リニア中央新幹線の整備効果を地域振興に活かすため、その基盤となるリニア駅周辺や座光寺スマートインターチェンジの整備を、生活環境や自然環境への配慮を踏まえつつ、市民との合意形成や各種団体等との協議のプロセスを重要視して、着実に進めます。 ◆リニア時代を見据えた地域公共交通の構築と情報基盤の整備を進めます。	13	リニア時代を支える都市基盤を整備する ◆リニア時代を見据えた土地利用について、住民の合意形成を図りながら、全市的な視点で取り組みます。 ◆生活環境等に十分配慮しつつ、リニア駅周辺や座光寺スマートIC及び関連施設等の整備を着実に進めます。 ◆新たな公共交通やSmartCityの構築に向け、AIやIoTの技術の活用展開について研究し、その実装に取り組みます。 ◆市民や来訪者等の利便性向上や、新型コロナウイルスへ効果的に対応するため、デジタル化や新技術活用などの地域情報化に取り組みます。	リニア駅周辺整備だけでなく、全体を俯瞰的にみた土地利用の視点を重視すること、生活環境整備、新しい技術の研究と実装に取り組むことを◆戦略の考え方として示した。